

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ヒトツナ東小金井教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 16日		～ 2026年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 2月 16日		～ 2026年 2月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっている。また子供達の活動に合わせた空間になっている。初めてご利用の児童でも、入室に抵抗や緊張が無いように、視覚的に落ち着いた空間作りを意識している。	毎日清掃や消毒を行い清潔感を重んじている。家具・備品・掲示物は刺激の少ない色調や絵柄を選んでいる。	引き続き児童が心地よく過ごせるような環境整備に取り組んでゆく。児童の安全を守るため、備品の配置には細心の注意を払うように心がける。
2	児童のことを十分に理解し、特性に応じた専門性のある支援が提供できている。	内部研修や外部講師・オンライン研修を積極的に受講し、社員教育を十分に設けている。新入職員が業務に困惑しないよう、コミュニケーションを大切に、職員間での積極的なSNSを活用して、社員相互の意見・質問の交換を風通しよく行える環境を作っている。	引き続き児童を理解するために研修継続する。また職員会議の開催を増やし、情報の積極的な共有を図り、サービスの均質化に取り組んで行く。
3	児童・保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されている。	支援計画を作成する際は、児発管だけではなく、全職員とモニタリングを行い、必要に応じて専門職の判断を仰ぎ、多角的な視点で児童の姿を捉えられるようにしている。	引き続き児童・保護者をより理解するため、研修等を継続する。職員にはホスピタリティの向上を指導徹底する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母会やペアレントトレーニング等、主活動以外でご利用者との交流が不十分である。	年度内に初めて父母会を開催できたが、準備に時間を要するため、開催頻度を増やせるか課題である。	送迎時やSNSを使ったご利用者とのコミュニケーションの中で、真のニーズを探ることができるよう、正職員もパートも問わず意識の向上を図りたい。
2	一部の児童より、活動が面白くないと言われる。	5領域を考慮した質の高い療育を提供できていると思うが、例えば公園や外部施設での活動が不足している。	児童や保護者のニーズを探りながら、療育の質を落とさず、児童の目線で「楽しい」と思う活動を増やしたい。
3	事故や災害時のマニュアルや対応状況等、保護者への周知や連絡が十分に行われていない。	適正に環境整備し、避難訓練等も行っているが、SNSや連絡ツールを有効に活用して周知されていない。	担当者を選任し、対外的なアピールに努め、ご利用者の安心・安全を守りたい。